

# 巻 頭 言

劔持 勝衛（東北大学名誉教授（幾何学））

1968年4月文部教官助手として東北大学理学部に採用されてからの40年間に、いくつかの数学講演を行い、そして聴いたことだろうか？ 数学における講演の重要性について論文発表と比べながら述べてみたい。筆者にとって最初の講演は1969年2月日本数学会東北支部例会における一般講演であった。助教授の先生方から「助手連中は皆話さない」といわれたの講演申し込みであった。例会の出席者は20名程度であったが、普段参加している佐々木重夫先生の幾何学セミナーとは異なり、異分野の先生方がおられて初講演は緊張した。その例会でどんな講演を聴いたかについては、自分の発表のことしか念頭になかったので、全く記憶にない。

「良い論文を書け」とよく言われた。確かに論文として専門雑誌に掲載されるとそれは人類の文化的所産の一つとして永久に残る。もしその雑誌が有名ならば、現在のような厳しい成果主義のもとでは、良い論文を書くことは自分の研究費の獲得、はては立身出世にも影響することになる。

しかしながら、「良い講演をせよ」といわれたことはなかったように思う。それは何故であろうか？ すばらしい成果の発表はどんな講演をしようとも、話し手からオーラがでていて聴衆は自然と感銘を受けるからであると思う。もちろん、筆者が若かった頃は「良く整理して話せよ」とか、「聞き手にわかってもらえるような講演をなさい」等の講演方法についての忠告を受けた。特に初めて英語で講演をすることになったときのことは良く覚えている。それは1977年9月東京で開かれた「極小部分多様体に関する日米セミナー」（日本側代表・大槻富之助東京工業大学名誉教授）であって、前もって組織委員の先生方から英語講演に関する丁寧なアドバイスと発声に関する具体的訓練まで受けた。この体験は非常に有益であった。そのご恩を忘れたことはない。

研究成果の評価は主として印刷媒体でなされるから、論文にまとめ、しかるべき雑誌等に掲載されるように努力することは重要である。しかしながら、あえて申せば、その論文は本人とレフェリー以外だれも読まないかもしれない。一方、口頭での発表は数十人（から数百人）にしか伝わらないが、ときとして、一生その講演を忘れない人が出てくる。更にはその講演を聴いたことがきっかけとなり、自分の進路を変える人まで現れる。影響を与える人の数は少ないが深い効果をただちに及ぼすことがあるのは講演のほうである。

数学では日夜多くの研究が成され、それらの内容の主たるものは日本学術振興会の科学研究費補助金採択課題・成果概要データベースで知ることができる。恥をしのんで告白するが、筆者が現役の教授のときはそのデータベースを見たことがなかった。実際、研究中の問題を解くことが最重要課題で、次には指導学生につきあい、そして授業や会議、折衝に追われた毎日であった。

では、数学全般にわたる重要な研究動向を知るにはどうしたら良いであろうか？ ネットで検索しようにもキーワードすら知らないときがある。数学分野で日本学術振興会の補助を受けている研究件数は基盤研究 (A) で 41 件 (2008 年度) あるが、これらの研究成果を講演で聴きたいと思う。長い講演でなくても良いのである。実際、興味を持った研究は公開されている報告書でより詳しく知ることができるからである。そこで提案であるが、日本数学会の年会、総合分科会で科学研究費の基盤研究 (S) や基盤研究 (A) の研究代表者による一般講演をやってもらいたい。これらの諸研究は既に国際学会や各専門分野での研究集会で招待講演として発表されているであろう。更には評価の高い雑誌に掲載されることが決まっているのも多いと推測される。したがって、研究代表者としての義務は完全に果たしているのであるが、更にすすんで日本数学会の会員全体にもそれらの優れた研究内容を直接知らせてほしいと思う。

年会等での一般講演の講演時間は 10 分から 15 分しかなく、また講演の申し込みも自分でしなければならぬ。この種の発表は研究評価においてあまり考慮されないので大研究の公表には適さないと思うかもしれない。しかしそうではないのだ。基盤研究 (S) や (A) の研究代表者による一般講演が有用である二つの理由をあげて終わりとしよう。一つには、数学会の多くの会員にとって研究費は十分でなく、たとへ、研究費が潤沢にあったとしても授業を度々休講にして色々な学術的会合に出かけるわけにもゆかない。せめて年 2 回の年会、総合分科会に参加して最新の研究成果、動向を知りたいと思うのである。二つめの理由として、基盤研究 (S) や (A) のような大規模な研究チームの代表者は日本数学会の会員約 5 千人を代表する数学者であるから、彼らの一般講演は次の研究主題を見つけようとしている研究者、特にポスドク、にとって良い刺激を与えらると思う。

(了)